

麦踏み、畠を駆けっこ 日田

「第16回大肥郷麦踏み大会」が9日、日田市夜明の麦畠であった。農産物の地産地消と地域の活性化に取り組む大肥郷ふるさと農業振興会(森山有男代表理事)の主催。市内外の親子ら約150人が参加し、大麦の若芽を踏んで麦の健やかな成長を願った。

「麦踏み大会」が、日田市夜明の麦畠でありました。親子ら約150人が参加しました。

丈夫に育って



大麦畠を走る子どもたち=9日、日田市夜明

は、地権者約135人の農地(計約30ha)を活用し、稲作の裏作として大麦や小麦などを栽培。大麦は地元の老舗酒造会社「老松酒造」の麦焼酎に使われている。森山代表理事は「麦の地産地消を進め、多くの人に魅力を伝えていきたい」と話した。



た。

大明小1年の藤田樹君(7)は「土がふかふかで気持ちよかつた。元気に育ってほしい」とはしゃいでいた。

麦踏みは、若芽を折り曲げることで茎を太くし、しっかりと土に根付かせるための昔ながらの農作業。

長靴を履いた参加者は、約1・7秒の大麦畠を往復しながら麦踏みを楽しんだ。ドラム缶を使った競走もあり、子どもたちは一生懸命に転がしていた。同振興会の食品加工部門「ももは工房」のメンバーが団子汁を振る舞い、みそや小麦などを販売した。

約1・7秒の大麦畠を往復しながら麦踏みを楽しんだ。ドラム缶を使った競走もあり、子どもたちは一生懸命に転がしていた。同振興会の食品加工部門「ももは工房」のメンバーが団子汁を振る舞い、みそや小麦などを販売した。

(2014年2月10日朝刊11面)

①せっかく伸びた若芽を何のために踏むのでしょうか。

.....
.....
.....

.....

②大麦は何の材料に使われるでしょう。

.....
.....
.....

③「稲作の裏作」とはどういうことでしょう。調べてみよう。

.....
.....
.....